



地域活動専門員日誌

新しい活動員を採用！ 新体制でスタート！



市採用の地域活動専門員の10人

新しい地域活動専門員



富松浩昭さん



佐々木光広さん



宮田賢樹さん



家富万里さん

4月から新たに地域活動専門員が4人採用され、青年海外協力協会所属の2人を含め、12人となりました。内訳は、地域課題の解決や防犯・交通安全運動などを通じて地域の活性化を図る「地域づくり担当」が6人、各種検診の受診を促すなどして健康づくりを推進する「健康づくり担当」が3人、さまざまな人材の育成や各種団体へのアドバイスなどを通じて地域リーダーを養成する「人づくり担当」が3人。

今年の1月号から市民の皆さまの健康づくりや地域活性化などのために各地で奮闘する地域活動専門員の活動を紹介しています。今後も精力的に活動を展開していきますので、彼らの活動にご理解とご協力をよろしく願います。

1_出荷を祝い乾杯する関係者ら 2_山ぶどう独特の芳醇な味わいを堪能 3_「遠野山ぶどうワイン」(720ミリリットル、2,100円)は市内の酒販店や観光施設などで販売しています



上品な酸味と甘味を堪能 山ぶどうワイン初飲み会

2012年産遠野山ぶどうワインの初飲み会(JAいわて花巻遠野地域特産生産部会主催)は3月25日、JAとおのライフサービス生活センターで開催されました。市内の山ぶどう生産者や関係者など80人は、遠野産の山ぶどうを使ったワインの芳醇な味わいを堪能しました。2012年産は、上品な酸味と甘味が特徴。香りも爽やかで飲みやすく、女性にもお勧めです。山口勝俊部会長は「山ぶどうの質が良かったため、2012年産は過去最高の出来栄え。たくさんの人に味わっていただきたい」と力を込めました。



感謝を込めてポスト清掃 仮設住宅で園児が奉仕活動

遠野郵便局と遠野地区郵便切手類販売所が主催する「ポスト感謝祭」は4月17日、仮設住宅希望の郷「絆」で開催されました。

感謝祭は、手紙やはがきを届けてくれる郵便ポストに感謝し清掃する行事として毎年開催。昨年に引き続き、被災者を元気づけたいと同所で行なわれました。光の園幼稚園の園児19人は、同所のポストを丁寧に磨き、自分でイラストなどを書いたはがきを投函。清掃後は、サポートセンターでお遊戯などを披露し、住民らと交流しました。及川陽奈ちゃん(5歳)は「ポストをピカピカにすることができてうれしいです」と声を弾ませました。

ポストさん、いつもありがとう



1_丁寧にポストを磨く園児たち 2_ピカピカになったポストに、自分で書いた手紙を投函 3_園児たちは住民の前で元気よくお遊戯などを披露し、交流を深めました



1_民謡に合わせて華麗な舞を披露する参加者 2_息の合った群舞が観衆を魅了 3_会場には伸びやかな歌声が響いていました 4_審査結果が貼り出されると歓声が。上位入賞者は全国へ駒を進めます



伸びやかな歌声会場響く 民謡民舞北東北大会を開催

平成25年度民謡・民舞少年少女北東北大会(財日本民謡協会北東北連合委員会主催)は4月21日、みやもりホールで開催されました。青森・秋田・岩手から参加した小学1年生から中学3年生までの120人は、伸びやかな歌声や華麗な舞を披露しました。

大会は、「外山節」や「南部牛追唄」など各地に伝わる民謡や民舞を披露し、歌唱力や表現力を競うもの。参加者が日ごろの練習の成果を堂々と披露すると、会場からは盛んに拍手が送られました。「チャグチャグ馬こ」を元気に歌った高橋なず菜ちゃん(宮守小2)は「緊張したけれど、練習よりもうまく歌えてよかった」とにっこり。

上位入賞者は、8月に東京都品川区で開催される全国大会に出場します。



共に遠野の未来を語ろう 富士ゼロックスが新人研修

富士ゼロックス(株)グループ(山本忠人社長)の新入社員と市民らが遠野の未来について考える交流会は4月16・17日の両日、遠野緑峰高校体育館で開催されました。

同社の新人研修の一環で実施され、新入社員260人と地域の社会人や中高校生など210人は、対話やグループワークを通じて遠野の魅力や将来像について語り合い、交流を深めました。菊池菜々子さん(遠野緑峰高2年)は「市内外の人と対話を深める中で、まちの魅力を再発見できた。遠野がますます好きになりました」と充実した様子でした。



遠野の魅力について語り合う参加者



紙芝居を披露する杉浦さん。遠野ずもなFMで収録された模様は5月1日、同局から放送されました

日本唯一のプロ腕前披露 紙芝居師杉浦貞さん来遠

紙芝居、始めるで！

被災地で紙芝居による慰問活動を展開している日本で唯一のプロ紙芝居師、杉浦貞さん(81歳)=大阪府在住=は4月18日、遠野ずもなFMを訪れました。被災地での活動を前に本市に立ち寄り、「日本のヘレン・ケラー」と呼ばれた中村久子の波瀾の人生を、手作りの紙芝居で披露。味わいのある画を熟練の声で情緒豊かに読み上げました。杉浦さんは4月19日までの5日間、NPO遠野まごころネットを通じて大槌町の仮設住宅を巡回し、紙芝居を上演。杉浦さんは現在も地元で精力的に活動を続けています。